スポーツ科学学術院 20年の歩み

2003年4月	スポーツ科学部設置
2004年6月	スポーツ医科学クリニック開設
2004年9月	スポーツ科学学術院設置
2004年10月	「スポーツ科学研究」発刊
2005年10月	トップアスリート入試制度開始
2006年4月	大学院スポーツ科学研究科設置
2006年4月	トップアスリート奨学生表彰開始
2006年9月	スポーツ科学研究センター設置
2007年3月	スカラーアスリート表彰開始
2009年4月	グローバルCOE「アクティヴ・ライフを創出するスポーツ科学」開始（～2014年3月）
2010年4月	スポーツ科学部再編（2学科から1学科へ）
2014年3月	WASEDA'S Health Study開始
2014年9月	スーパーグローバル大学 健康スポーツ科学拠点開設
2015年4月	大学院スポーツ科学研究科 エリートコーチングコース開設
2017年7月	早稲田大学スポーツMBA Essence 開講
2018年9月	修士課程英語学位プログラム開設
2018年10月	総合型選抜入試制度開始
2023年9月	Global Sport University Network (GSUN) Councilメンバーに加入（世界10大学）

スポーツ科学学術院の今

（2023年9月末時点）

学生数

スポーツ科学部　1,659名

スポーツ科学研究科　修士課程　214名　博士後期課程　115名

教員数

専任教員　　教授 45名　准教授6名

任期付教員　准教授3名　講師　6名　助教12名　助手2名

スポーツ科学研究センター

招聘研究員数　91名

卒業生および修了生（総数）

スポーツ科学部卒業生　7,382名

スポーツ科学研究科修了生　修士課程　1,535名

博士後期課程　240名

研究費関係（2022年度）

科学研究費獲得数　51件　総額10,518万円

その他、外部研究資金受入件数　15件　総額3,141万円

国際交流

海外提携大学28校

（うち交換留学制度23校　博士共同指導制度コチュテル2校）

QS世界大学ランキング（2023年）

Sport-Related Subjects　世界51-100位

（過去最高位世界19位　2017年）

ご支援をお考えの皆さまへ

スポーツ科学部の教育を益々充実・発展させるため、
ご寄付頂ければ幸いです。
添付のQRコードからお願いします。
「指定先（詳細）」は空白で結構です。

早稲田大学
スポーツ科学学術院
Faculty of Sport Sciences

早稲田大学 スポーツ科学学術院

創設20周年 記念式典

2023年 10月 7日（土）

記念式典
早稲田大学小野記念講堂
13:30 開式　17:30 閉式

祝賀会
リーガロイヤルホテル東京
18:00 開式　20:00 閉式

記念式典 プログラム

13:30 開式

13:35 開会挨拶

松岡宏高 早稲田大学スポーツ科学学術院長

13:40 大学挨拶

後藤春彦 早稲田大学副総長

13:45 来賓祝辞

松浪健四郎 全国体育スポーツ系大学協議会会長
日本体育大学理事長

13:50 基調講演1
「早稲田スポーツの歴史を踏まえたスポーツ科学部のなりたち」

村岡功 早稲田大学名誉教授・元学術院長

14:20 基調講演2
「スポーツ科学学術院の将来ビジョン」

松岡宏高 早稲田大学スポーツ科学学術院長

14:50 休憩

15:00 特別講演1
「教育学部体育学専修の思い出」

和田浩孝 ダブルライズ税理士法人 代表社員税理士 所長

15:20 特別講演2
「人間科学部スポーツ科学科の思い出」

高岡勝 早稲田大学米式蹴球部 監督

15:40 休憩

15:45 表彰式（卒業生および修了生の表彰）

16:00 シンポジウム「スポ科で学んだことと期待すること」

司会：藤田善也 准教授、細川由梨 准教授
シンポジスト：田村恵彦、篠雄也、辻翔子、竹澤健介

17:30 閉式

式典要旨

2003年のスポーツ科学部創設以来、スポーツ科学学術院は20周年を迎えました。この間、スポーツ科学部では17期（7,382名）の卒業生を輩出し、2006年開設のスポーツ科学研究科も修士・博士合わせて1,775名の修了生を輩出いたしました。
これまでの我々の活動を振り返りこれからの展望を期すために、創設20周年の記念式典を催します。

学術院長挨拶

スポーツ科学学術院長・スポーツ科学部長
松岡　宏高

本日はスポーツ科学学術院創設20周年記念式典にご参加くださり、誠にありがとうございます。早稲田大学におけるスポーツおよびスポーツ科学に関する教育・研究の蓄積を引き継いだスポーツ科学部、そしてスポーツ科学学術院は、国内トップレベル、アジアでも有数のスポーツ科学拠点に成長してきました。昨今、スポーツ科学の教育・研究の成果がスポーツ界に留まることなく、国内外で広く社会に貢献することが求められるようになっております。本日は、これまでのスポーツ科学学術院の足跡を振り返るとともに、さらに地域社会および国際社会に貢献するためのこれからの学術院の方向性について皆さまと一緒に考えたいと存じます。

スポーツ科学学術院のこれから

スポーツ科学学術院の使命
"Mission"

「スポーツ科学を通じて地球市民一人ひとりを幸せにする」
スポーツの発展のための教育と研究に加えて、スポーツ科学によって地域社会および国際社会の様々な課題解決に貢献する教育と研究に取り組み、社会の持続的な発展に寄与する。そのために、
1）スポーツを題材に多様な見方で物事を解決する教育を通して、利他の精神とより良い世界を創る高い志を持つ人材を育てる（教育）
2）学際的研究を通してスポーツ科学の知を統合し、スポーツの「総合知」を創出する（研究）
3）教育と研究から得られたスポーツ科学の知見を（スポーツの総合知を）を世界に広く還元し、人類の幸福と安寧の実現に貢献する（社会貢献）

スポーツ科学学術院の展望
"Vision"

2032年までに、「スポーツ科学の教育と研究におけるアジアのファシリテーター」になる。
【学部】日本における最も学ぶ価値のあるスポーツ科学関連の学部になる。
【研究科】アジアにおいて最も学ぶ価値のあるスポーツ科学関連の大学院になる。
【研究センター】アジアで最も優れ、世界トップ10に入るスポーツ科学の研究拠点になる。